

# ～子ども議員任命式を行いました～

令和元年7月14日（日）滋賀県庁 新館7階大会議室

今年度も5月下旬から6月下旬にかけて、県内在住の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に、滋賀県子ども議員の募集を行ったところ、県内各地から58名の御応募をいただきました。ありがとうございました。

この程、その中から50名の子ども議員を決定し、子ども議員として活動への意欲を高めるとともに、初めて出会う子ども議員同士の交流を深めるために「子ども議員任命式&交流会」を開催しましたので、その様子を報告します。

## 子ども議員任命式



今年度、県内12市町より、小学4年生から中学2年生までの50名が子ども議員に任命されました。

まず任命式では、三日月知事より、一人ひとりに任命書が手渡されました。緊張気味の子ども議員もいましたが、名前を呼ばれると大きな声で返事をし、堂々と任命書を受け取ることができました。

また、知事とがっちり握手をし、激励の言葉をもらい、知事とツーショットでお家の方に記念写真を撮ってもらいました。子ども議員の表情からは笑顔もこぼれていました。

任命式の運営は、碧いびわ湖と子ども議員経験者が中心のサポーターが担ってくれました。今後の体験活動や勉強会では、良きお兄さん、お姉さんとして子ども議員たちと一緒に活動していきます。子ども議員たちにとっては半年間の活動で大変心強い存在となります。

次に知事のお話を聞きました。知事からは、「昨年度、子ども議員経験者によって子ども用の観光パンフレットが完成するなど、みなさんの思いを形にすることができている。これから行われる体験活動や勉強会を通じて、滋賀県ではどんなことが問題なのか、どうしたらもっと良くなるのかを考え、皆さんならではの柔軟な発想と豊かなアイデアで、



いろいろな提案を考えてほしい。県議会の議場で、皆さんの御意見、御提案を伺うのを大変楽しみにしている。」と激励の言葉をいただきました。

最後に、知事、子ども議員、サポーターみんなで記念撮影をしました。知事から任命を受け、12月に開催する「子ども県議会」に向けて、意欲を新たにしました子ども議員でした。

## 子ども議員交流会



任命式に引き続き、初めて出会う子ども議員どうしの交流を深めるために交流会を行いました。最初は緊張気味の子ども議員たちでしたが、アイスブレイクのゲームを通して、すっかり緊張もほぐれ、自然に子ども議員どうしの会話が生まれてきました。そして小グループで話

をするときには、自分のことを積極的に話す子ども議員の姿が見られたり、たくさんの子ども議員の笑顔が見られました。交流会では、子ども議員たちに積極的に話しかけ、心をほぐしてくれたサポーターのおかげもあって大変盛り上がりました。これからの活動の中でも子ども議員どうしやサポーターとの交流を深め、友情の輪が広まることを願っています。



**みんなで半年間一緒に頑張りましょう**

# 地域体験活動①

## 福祉って何だろう？ in 近江八幡

令和元年8月3日（土）近江八幡市  
ボードレス・アートミュージアム NO-MA  
おうみやカフェ  
近江八幡市立図書館

「福祉」ってよく聞く言葉ですが、どういうことでしょうか？「障がい」ってどういうことでしょうか？みんなの生活で「福祉」って関係しているのでしょうか？これからの滋賀の社会と福祉はどうなっていくのでしょうか？体験活動の第1回目は近江八幡市のアートの現場とカフェを訪問して、「福祉」について考えてみました。

### NO-MA の作品に込められた思いを知る



暑さが厳しい8月、猛暑日を記録する中、久しぶりに子ども議員が集合、今回は、子ども議員を2つの班に分けて、近江八幡市にある「おうみやカフェ」さん、「ボードレス・アートミュージアム NO-MA」さんを訪問しました。

2004年に町屋を改装して建てられた「ボードレス・アートミュージアム NO-MA」では、最初に職員の横井さんから、NO-MA がどのようにして建てられたのか、また、「ボードレス」とは何か、など、この美術館の特徴とそこに込められた思いについてお話を伺いました。

NO-MA では、障害のある・なしに関わらず、また障害にクローズアップせず、作品のおもしろさに目を向けてもらえるようにされているとのこと。横井さんからは、「福祉」とは「誰もが幸せに暮らせる社会」で「その人の持っているものを使って、生活できること」と教えていただきました。子ども議員は横井さんのお話を真剣に聞き、それぞれ積極的にメモをとっていました。





その後、子ども議員たちは自由に作品を見て回りました。子ども議員どうしやサポーターと一緒にそれぞれの作品について、作品の内容について感想を話したり、作品が伝えたいことは何か、など自由に見学していました。

## 障害のある方の支援の現場を訪ねて



開設17年目を迎える「おうみやカフェ」は、福祉法人が運営している就労支援事業所です。はじめに代表の山岡さんからお話があり、御自身が特別支援学校で仕事をされていたこともあり、地域の人たちと交流しながら店舗の仕事を理解し、覚え、少しでも収入を得ることで喜びを感じて欲しいという願いからこのカフェが作られたとのこと。そして、近江八幡の今の場所に移って9年目になるそうです。「おうみやカフェ」での仕事は、軽食、喫茶、手作り小物の作成と販売で、スタッフや仲間と一緒に頑張っておられます。

今回、おうみやカフェのみなさんは、私たち子ども議員が訪問するのを心待ちにされていたようで、子ども議員任命式の新聞記事を掲示してくださっていたり、おうみやカフェ通信に掲載して、関係の皆さんにお知らせしてくださり、また当日は手作りクッキーを試食させていただいたりするなど、温かい歓迎をうけました。本当に嬉しい限りです。

今回は、アクリルたわしや刺し子などの小物を作ったり、接客をされている障害のあるお二人の方からお話を聞かせていただきました。お話の中で、御自身の仕事のことだけでなく、段差が少ない街になってほしい、ホームと電車の間隙をもっと狭くしてほしい、医療費をもっと安くしてほしいなど、それぞれの立場から子ども議員に対して具体的な要望があり、子ども議員は障害のある方の思いを直接聞くことができ、とてもよい機会となりました。



## まとめ学習



「おうみやカフェ」さん、「ボーダレス・アートミュージアム NO-MA」さんでの体験を終えた子ども議員は、近江八幡市立図書館にてまとめ学習を行いました。

今回の体験学習で感じたこと、思ったこと、学んだことなどを、子ども議員それぞれでまとめました。10分間という時間でしたが、会場内が静まり返るほど集中してまとめられました。

その後、グループ内でのわかちあいでは、はじめてのグループ学習だったこともあり、最初は上手くいきませんでした。サポーターのお兄さん、お姉さんのアドバイスで、少しずつ進んでいき、自分の意見を言えるようになっていきました。全体でのわかちあいでは、自分から進んで発表するグループ、ボードを使いながら発表するグループなど、しっかりとグループの意見を出し合うことができました。



また、次回に行う「ボイス調査」の説明も行いました。サポーターによる「ボイス調査の方法」についての寸劇があり、子ども議員は楽しみながらも、今後行うボイス調査についてイメージを膨らませていきました。

今回の学びを次回以降の体験活動や提案文の作成に活かしてほしいと思います。

# 地域体験活動②

## 住みたい町はどんな町？ in 長浜

令和元年8月17日（土）長浜市  
曳山博物館、黒壁スクエア周辺



長浜市は黒壁ガラス館の人気や大河ドラマで取り上げられたことでたくさんの観光客が訪れ、にぎやかな町です。他方で、長浜をはじめ、滋賀県北部では、住む人が減っていて、空き家が増えたり、農地や山林の維持が課題となっています。今回は、人口減少とそれに伴う空き家や、農山村でのお仕事などについてゲストからお話を聴いて考えてみました。

### 空き家の現状、移住者のお話を聴く



まず最初にいざない湖北定住センターの川村さんから、県内、長浜市内の空き家の現状について教えていただきました。

県内の空き家は約 78,000 戸、その率は約 12.9%、7 軒に 1 軒は空き家であり、長浜市も県内の空き家率よりは低いものの約 11.1%である現状に、子ども議員からは「県内の空き家って多いんだな。」などの声が聞かれました。また、空き家がそのままの状態では危険な状況になっていることなども写真を通して知ることができました。そして、空き家をそのままにせず有効活用を図ろうと、空き家バンク登録や空き家見学会などの取組が行われています。その事例なども写真を通して教えていただきました。



次に、県外から長浜の農村部へ移住し、現在は森林組合にお勤めの伊藤さんから、移住先での生活についてお話を聞きました。「日々の暮らしはとても楽しい。自然の恵み・農作物ができ、協力があってとてもうれしい」と聞かせていただきました。一方、実際に移住してみたかったことや、デマンドタクシーなど高齢者への配慮ももっとあればいいのではといった思いも聞かせていただきました。



お二人のお話を聞き、子ども議員はグループに分かれて、意見交流を行いました。そしてお二人に積極的に質問することができました。

## ボイス調査



前回、寸劇を見ながら、「ボイス調査」のイメージを膨らませた子ども議員。今回はいよいよ子ども議員自身で実践する時がやってきました。

どんな質問をするのかをグループで話し合い、それらを事前にボイスカードに書いて、長浜黒壁スクエアや商店街を中心に、観光客の方や地元の方にお話を伺いました。最初は緊張してなかなか

うまく話しかけることができなかつた子ども議員も、サポーターのアドバイスを聞きながら、少しずつ声をかけることができるようになりました。グループによっては5人、6人と積極的に声をかけることができ、多くのボイスカードを集めることができました。とても暑い中での活動でしたが、大変充実している様子がみられました。

## まとめ学習



最後に、今回のまとめを行いました。今回のお話を聞いた内容とボイス調査の内容をふまえ、「空き家を減らしていくためには」「人口減少を食い止めるためにできることは何か」などについてグループで意見交流を行いました。

子ども議員からは、「子どもの遊び場やテーマパ

ークなどもつくってみてはどうか」や「交通網を充実させた方がいいのでは」など、それぞれが考えたことを率直に出し合うことができました。

今回の学びを次回以降の体験活動や提案文の作成に活かしてほしいと思います。



# 地域体験活動③

## 流れたごみはどこへ？ In 大津

令和元年9月15日（土）長浜市  
ウォーターステーション琵琶、瀬田川洗堰周辺

滋賀の中心には琵琶湖があります。道路や溝に転がったごみは川を流れて琵琶湖へたどりつきます。結果として、琵琶湖にはたくさんのごみが集まることとなります。湖岸で捨てられたごみも琵琶湖へ行きます。そして、琵琶湖から流れたごみはどこへ行くのでしょうか？今回は水の流れと共に広がっていくごみについて考えてみました。

### どんなごみがあるのかな？



まず、「淡海を守る釣り人の会」の方からお話を聞き、早速、瀬田川沿いのごみ拾いを行いました。さまざまな企業や団体から協力をしていただいた作られたごみ袋をもらい、グループごとにごみ拾いを開始しました。「たばこの吸い殻が多いなあ」「ビニールが多く捨てられているなあ」など、子ども議員は拾ったごみの種類に

ゴミの分別を行い、ゴミの種類や量を確認する



お二人のお話を聞き、子ども議員はグループに分かれて、意見交流を行いました。そしてお二人に積極的に質問することができました。



## 琵琶湖にあるごみの現状は？

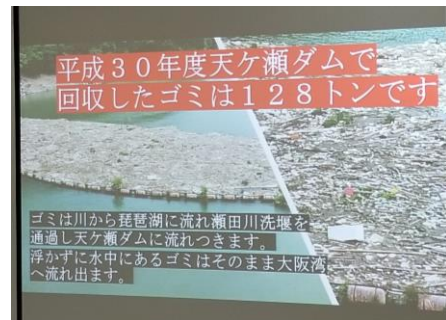


午後からは「琵琶湖のごみの行方」と題して、淡海を守る釣り人の会の武田さんからお話を伺いました。淡海を守る釣り人の会の活動の紹介や会で実施するゴミ拾いの様子、量や分布の状況、琵琶湖から排出されたゴミ、日本から排出されたごみの行方などについて、スライドやクイズを交えてとても分かりやすく説明していただきました。

きました。

そして最後には、子ども議員に対して、

「ヒトが生きていく上で絶対に出てしまうごみ。この問題をどうしたらいいと思いますか？みんなができることからグローバルイシュー（地球的規模での問題）の解決に向け議論をお願いします」と投げかけていただきました。



## 自分たちのアイデアをみんなに伝えよう

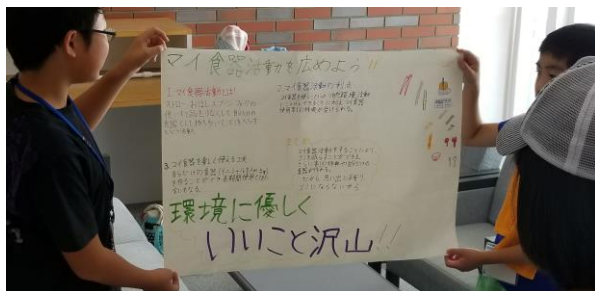


「淡海を守る釣り人の会」のみなさんから声をひまえ、子ども議員はグループに分かれて、「ゴミを減らすためにはどうすればよいのか」そのアイデアや方策を話し合いました。今回は話し合った内容を模造紙にまとめていきました。

そして、グループでまとめて模造紙使って屋台形式で回り、それぞれのグループの考えを聞きました。時間が短い中での準備でしたが、どのグループもしっかりと話し合い、見やすくまとめるこ



とができました。また、工夫した発表もできました。



# 議会勉強会①

## 「提案文づくりに取り組もう」

令和元年9月29日（土）大津合同庁舎



いよいよ、今回から子ども県議会に向けての勉強会が始まります。今までの体験活動とはガラッと変わり、みんなで話し合い、考え、それらを文字に表していくことがメインとなります。子ども県議会当日を見据えて、今回からはじっくりとみんなで取り組んでいきます。

### 議会のことを知ろう

#### 滋賀県議会について



みんなで学ぼう！

「議会勉強会」を始める前に、少し頭を柔らかくするため、アイスブレイクから始めました。その後、子ども議員は「滋賀県議会のしくみ」について、滋賀県職員よりスライドを使って説明を受けました。難しい言葉も出てきて、すこし戸惑いもあるようでしたが、「議会ってどのような役割があって、どのような仕事をしているのか」「どのように議会が行われているのか」など、大まかに掴むことができました。

そして、「自分たちも滋賀県の子ども代表として、子ども県議会にしっかり臨もう！」という意識を新たにしました。

「滋賀県議会のしくみ」を学習した後は、昨年度の子ども県議会の VTR を視聴し、役割についての説明を聞きました。子ども県議会は、提案をする役割だけでなく、議長、子ども宣言の発表、感想の発表など、様々な役割があります。実際に過去の映像を見ながら、「子ども県議会」の雰囲気をつかむとともに、それぞれの役割について知り、自分がどんな役割で頑張りたいか、それぞれ考えるきっかけができました。

議長席から見てみると・・・



## よりよい未来の滋賀をつくるために



子ども県議会の全体像と当日の雰囲気をつかんだ後、「10年後にこんな滋賀県になったらいいのにな。」という思いを「ウィッシュポエム」として短冊に書き込み、それぞれの考えをグループ内で発表しました。

子ども議員からは、「滋賀県の魅力をもっと知ってもらい、観光客がいっぱいくる滋賀県になってほしいな。」「もっと交通の便がよくなってほしい。」「住みやすく自然があふれる滋賀県になってほしいな。」など、さまざまな思いが出され、みんなで交流していました。そしてその短冊を「教育」や「防犯・防災・安全」、「環境」、「商業・移住」、「ユニーク」などのジャンルに分けました。

その後、子ども議員は、それぞれ興味のある分野ごとの小委員会に分かれました。まとめた短冊を並べ、それらを眺めながらさらにまとめ、それぞれについて、今の状況がどうなっているのか、そしてよりよい滋賀県になるためにはどうすればよいのか、その具体的な方法について意見を出し合いました。



子ども議員は、仕分けた短冊の中から提案をしたいと思うものを選び、用紙にまとめていきました。この内容をもとにして、提案文を作成していきます。



そして、提案文を作り込んでいく前に、過去の先輩方の提案文を見ながら、提案文を上手に書くためには、自分の言いたいことをはっきりとさせ、それをうまく表現することが大切であることなど、ポイントを幾つか学びました。

提案文を実際に作り込んでいく中で、足りないところや「こうしたらどうだろうか」というところについて、子ども議員やサポーターからアドバイスをもらったりもしました。まだまだ提案文の完成までには時間がかかりますが、しっかりと考えをまとめて、素晴らしい提案文に仕上げたいと思います。

子ども県議会当日に向けて、ここが踏ん張りどころです。みんなの頑張りに期待しています。

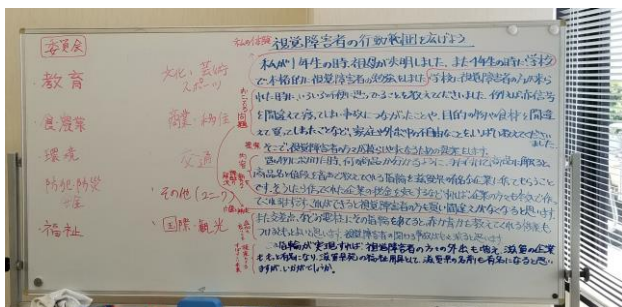
# 議会勉強会②

## 「提案文と真剣に向き合って」

令和元年10月6日（日）大津合同庁舎

前回から、子ども県議会本番に向けての「議会勉強会」が始まりました。「議会勉強会」では、「県議会のしくみ」から始まり、子ども県議会当日に発表する提案や子ども宣言、議会活動などについて、子ども議員みんなで協力しながらまとめていきます。今回はその第2回目として、提案文や体験活動の発表原稿の完成を目指して協力して取り組みました。

### それぞれの役割と向き合う



今回もアイスブレイクから始まり、全員で前回の確認を行った後、いよいよ子ども県議会当日の役割分担を行いました。子ども県議会には、提案、議長、子ども宣言、感想発表など、様々な役割があります。まず、議長の大役を、中学生を中心に女子3人が引き受けてくれま

した。また、子ども宣言の発表役も積極的に立候補し、いくつかの役割が決まりました。

そして、多くの子ども議員が「当日、ぜひ提案をしたい」と手を挙げてくれました。当日は、その中の何名かが実際に議場で提案をします。また、子ども宣言や感想発表については、次回の勉強会で決まり、当日の役割分担が確定します。

その後は、全員で提案文の作成の仕方について、過去の提案文をお手本として、みんなで学習しました。

役割ごとに集まり、提案したいことについてグループ内で発表し、いよいよ子ども県議会当日に発表する提案文の原稿、子ども宣言の検討、議長口述の内容の確認などを行っていきましました。提案文の作成をする子ども議員は、前回の勉強会や各家庭でじっくりと考えてきた内容を、サポーターと相談しながら少しずつまとめていきました。



今年は、2人から5人で行う共同提案がいくつか出てきました。それぞれの思いを1つの提案文にまとめていくことはとても大変ですが、しっかりと話し合いながら提案文を書

いていきました。

## ねばり強く提案文を作り上げる



さて、順調そうにみえていたものの、いざ、碧いびわ湖の方や県職員にまとめた原稿を見てもらうと、自分の思いがうまく文章に表現できていなくて、何度も書き直しや赤ペンが入りました。子ども議員は、そのつどサポーターにもアドバイスをもらいながら、自

分の思いがしっかり伝わるよう、ねばり強く提案文の原稿作成に取り組み、多くの子ども議員が何とか完成までこぎつけることができました。今年はどんな提案をしてくれるか、今から楽しみです。

次回、12月8日(日)は、それぞれの役割を確認し、子ども県議会のリハーサルを行います。いよいよ12月25日(水)の子ども県議会に向けて、勉強会も佳境に差し掛かってきました。子ども議員それぞれが自分の役割をしっかりと果たし、自分の思いを県議会議場で堂々と発表できるようにするため、みんなで万全の準備をしていきたいと思います。また、県内各地に広がった友達の輪を大切にしながら、素晴らしい子ども県議会になるよう、子どもたちの活動を見守っていききたいと思います。



# 議会勉強会③

令和元年12月8日（日）大津合同庁舎会議室

いよいよ子ども県議会に向けての活動も佳境です。今回は、子ども県議会本番に向けての「議会勉強会」の最終回です。子ども県議会当日に発表する提案や子ども宣言、議会活動などについて、それぞれ発表準備に取り組んだり、リハーサルを行いました。

## 提案者発表、役割分担決まる！



「子ども議会で提案してみたい」と積極的に立候補し、2回の勉強会を通じて完成した提案文の中から15本の提案に絞り、ついにこの場で共同提案も含め、28人の提案者が発表されました。子ども議員たちもドキドキしながら提案者の名前が発表されるのを聞いていました。提案者の名前が発表されるたびに全員から拍手が起こり、提案者には提案文が渡されました。

その後、活動発表担当や子ども宣言担当など、当日の役割分担を決めていきました。自分から進んで立候補している姿が素晴らしかったです。子ども議員は、以下の役割に分かれて、子ども県議会に臨みます。

議長	「子ども県議会」を進行します。
質問・提案	これまでの活動を通して考えた「よりよい滋賀県」になるための提案等を発表します。
子ども宣言	各委員会で考えた、子どもたち自身の行動宣言を発表します。
感想	半年間の活動、子ども県議会の感想等を発表します。

## 入念に準備と打合せをしています！

役割分担が終わると、すぐに各担当で準備や打合せを行いました。議長3人は、議長のシナリオとにらめっこ。マーカーを引いたりしながら、自分の担当部分を丁寧に読み込んでいました。提案をする子ども議員は、自分の提案文の中で強調したいところなどを確認しながら、何度も読む練習し、またサポーターの前で本番さながらに練習し、







直すべき点なども確認していました。

一方、子ども宣言や活動発表については、前回決まった宣言案や活動紹介シナリオについて、担当を割り振り、それぞれで何度も練習をしました。

## 子ども県議会リハーサル



午後からは、子ども県議会に向けて、会議室を議場に見立て、当日をイメージしながらリハーサルを行いました。

子ども県議会は、滋賀県議会と同じように、議長進行のもと、議事を進めています。この日も本番の流れについて説明を受け、3人の議長の進行のもと動きを

確認し、話す速さや抑揚、姿勢、身振り手振りといった細かなところまで気を配りながらリハーサルに取り組みました。

特に、あいさつ、おじぎについては何度もやり直しました。みんなで声を揃える、どのタイミングでおじぎをするのか、一つ一つ確認しながらリハーサルが進んでいきました。

リハーサルの中では、上手く提案や発表ができた子ども議員もいれば、緊張して声が少し小さくなってしまったり、早口になってしまったりして、上手く言えなかった子ども議員もいました。また、サポーターから当日に向けての辛口のアドバイスももらいながら、当日に向けて、気持ちをさらに高めていきました。



これで、子ども県議会までの活動がすべて終わりました。残すはいよいよ12月25日(水)の子ども県議会当日のみです。一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たし、思い出に残る「子ども県議会」になることを願っています。

# 子ども県議会を開催しました！

令和元年 12月25日（水） 滋賀県議会議場

12月25日（水）に「子ども県議会」が、滋賀県議会議場で行われました。7月14日の滋賀県庁での任命式において、三日月知事から子ども議員として任命され、それ以来、体験活動や勉強会を通して滋賀県のことを学び、考えてきた子ども議員にとって、この日がいよいよ「本番」です。これまでの活動の中で考えた提言を知事や教育長、各部長に発表しました。

子ども県議会では、今年は中学生の子ども議員3人が議長となり、議事を進めていきました。まず、出席者の紹介の後、来賓としてお忙しい中来ていただいた生田県議会議長、佐藤厚生・産業常任委員長から御挨拶をいただきました。



壇上で堂々と提案発表しました。

今年は15の提案を28人の子ども議員で発表しました。提案を発表するまでに、サポーターやお家の人にアドバイスをもらいながら、何度も提案文を書き直したり、読む練習をしたり、そして分かりやすくするために身振り手振りを加えたり、グラフやVtuberのイラスト、ロゴマークなどを描いて提示するなど、それぞれがこの日に向けて工夫や努力を積み重ねてきました。



## 令和元年度子ども県議会 提案一覧

番号	提案題名	答弁者
1	みんなに優しい公共交通機関にするために	知事
2	多目的トイレにユニバーサルシートの設置を進めよう	由布副知事
3	夢や目標を持つ子どもを増やしていくために	教育長
4	みんなが健康に過ごせる滋賀へ	健康医療福祉部長
5	みんなで安全に使える歩道にするために	土木交通部長
6	無農薬の野菜や果物をあたりまえに	農政水産部長
7	全国初のご当地Vtuberユニットをつくろう	知事公室長
8	ポイ捨てをなくし、川やびわ湖を守るために	知事
9	本で滋賀を有名にできるか？	由布副知事
10	滋賀県を世界中に知ってもらうために	知事
11	ペットの殺処分0の滋賀県に	健康医療福祉部長
12	環境にやさしい滋賀にするために	琵琶湖環境部長
13	子ども子どもによる子どものための子ども食堂	子ども・青少年局 副局長
14	滋賀の魅力を伝えるために	商工観光労働部長
15	「おいしがうれしが」を「まずしがかなしが」にしないように、 「おいしがうれしが」のシステムを変えよう	知事



子ども議員の中には、「はい、議長！」と大きな声で挙手をして、しっかりと発言できた人や大きく身振り手振りを交えながらゆっくりと分かりやすく発言できた人、また、作成したポスターを知事や部長、来賓の方々に見えるように提示しながら発言できた人、そして、1つの提案を3人や5人で分担し、協力して発言できた人など、本当に素晴らしく頼もしい姿を多く見ることができました。





子ども議員の堂々とした発言ぶりに、知事をはじめ、教育長、部長のみなさんもとても感心していました。そして、それぞれの提案に対する答弁をいただきました。その中には、「実現したいと思います。」や「関係のみなさんと相談していきたい。」、「取り組んでいきたい。」など、子ども議員の提案を前向きに取り入れた答弁を多く聞くことができました。また、子ども議員自身が今後考えて欲しいこと、積極的に

行動を起こしてほしいことなどもアドバイスいただきました。子ども議員たちは答弁された内容について、子ども議員ノートにしっかりとメモをとっていました。



休憩の時間には、子ども議員はメディアの取材を受けるだけでなく、三日月知事と交流するなど、子ども議員にとっては休憩時間にも貴重な経験ができました。



## 子ども宣言を提案、全会一致で可決



すべての提案・答弁が終わった後、子ども宣言の提案に移りました。この子ども宣言は、子ども議員がこれまでの活動や日常生活を通して、滋賀県について感じたことや考えたことを小委員会で話し合い、これからの生活において自分たちが実行していくことについてまとめたものです。

## 子ども県議会 子ども宣言

- ◎お年寄りや障がいのある方が困っていたら、手を差し伸べます。
- ◎私たちは夢を持ち、それに向かって全力を尽くします
- ◎私たちは、滋賀の食べ物を県外の友達などにおいしい食材を広めます。
- ◎私たちは道で困っている人がいたら進んで助けます。
- ◎滋賀県の古い文化を伝承しながら、新しい文化も発信します！
- ◎無駄なものを絶対を買わない！！ポイステもしないことを誓う！！
- ◎私たちは犯罪のない、安心安全な滋賀県にするために、地域の人たちと助け合います。
- ◎私たちは何か困っている観光客の方がいたら、積極的に声をかけ助けます。
- ◎私たちは殺処分ゼロを目指し、罪のない動物から命を奪いません



提案後、採決に移りました。  
子ども議員全員が賛成し、  
子ども宣言は、全会一致で  
原案どおり可決されました。  
これからの生活において、  
宣言のとおり行動してより  
よい滋賀づくりに貢献して  
ほしいと願っています。

## 子ども議員の活動を振り返って

次に、子ども議員の活動を振り返って、3人の子ども議員が代表して感想を述べました。

それぞれの感想の中で、体験活動で心に残ったことや学んだことから、今後の生活の中で取り組みたいことを話す子ども議員や「仲間がいることで、子ども県議会の活動がとても楽しくなった。」「子ども県議会に入ってよかった」「これからも大きな声で、自信を持って話して、多くの友達を作っていきたい。」など、それぞれがこの子ども議会の活動を通じて満足感を得られたことが分かりました。



閉会にあたって、三日月知事から挨拶をいただき、これまでの子ども議員としての活動にねぎらいの言葉をいただくとともに、これからの子ども議員の皆さんに激励の言葉をいただきました。

特に、子ども議員に向けて、「自分のことだけじゃなくて、周りの人たちのこと、困ってるなあと感じる人たちのこと、また、私たち人間だけではなくて、犬や猫の命のこと、そんなことを考えてくれたことがうれしかった。」また、「これからも滋賀県政は、滋賀県は、子どもの目線、子どもの意見を大切にしていかなければならない。」とたくさんのお褒めの言葉をいただきました。知事からのお褒めの言葉とこれからへの激励の言葉は子ども議員にとっても大変励みになったと思います。

本日の「子ども県議会」をもちまして、子ども議員としての活動は終了しました。子ども議員のみなさん、半年間、意欲的に活動に参加していただき、ありがとうございました。今年は残念ながら中学3年生の応募はありませんでしたが、県内各地より小学校4年生から中学校2年生までの幅広い年齢層の子ども議員が集まり、楽しく活動し、自分の思いを語り合う中で、滋賀県がさらによりよくなるための素晴らしい提言や子ども宣言を考え、言葉にすることができました。そして、「子ども県議会」本番では、多くの人たちの前で、堂々と立派に発表することができました。これからもそれぞれの学校・地域において、今回の経験を生かし活躍してくれることを期待しています。

